

Book Preview

富山高校図書館 2022.10



『 世界裁判放浪記 』

原口 侑子／著

とある法律事務所に勤めていた弁護士は、あるとき世界各国放浪の旅に出る。目的の1つは裁判傍聴。訪れる先々で法廷へ赴き、傍聴した国は30カ国。各国で出会う魅力的な人々や文化、緊張感漂う法廷内外の様子、裁く者・裁かれる者たちの人間模様を、ときに弁護士、ときに旅人の視点でみずみずしく描く。番外編として、東京地方裁判所での裁判員裁判を追った迫真のルポも収録。

『 蛍と月の真ん中で 』

河邊 徹／著

写真館を営んでいた父の影響で、カメラマンを目指すようになった匠海。父の死後、母との関係性が悪くなった匠海は、逃げるように東京の大学に入学し、写真を学び始める。しかし、待っていたのは、学費と生活費を稼ぐだけで精一杯の毎日。「これ乗り越えれば夢に近づける」と自分を奮い立たせていたが、ある出来事をきっかけに、休学を決める。実家にも帰れず、衝動的に向かった先は長野県・辰野町——かつて父が蛍の写真を撮影した場所だった。なんの計画もなく訪れた匠海を出迎えてくれたのは、父が愛した美しい景色。そして、それぞれの事情により辰野で暮らす人々との出会いが、彼の心を変えていく——。自分の居場所を見つける物語。



『 民王 』

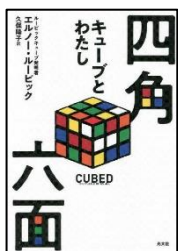
池井戸 潤／著

混迷する政局の中、熾烈な総裁選を勝ち抜いて内閣総理大臣に就任した与党民政党の政治家・武藤泰山。低迷にあえぐ支持率を上げようと意気込んだのも束の間、まさかの“事件”に巻き込まれ、国民に醜態をさらすことになる。その頃、泰山のバカ息子・翔にも異変が。夢か現か、新手のテロか。直面する国家の危機に、総理とバカ息子が挑む“笑撃”のサスペンス。彼らは果たして、日本の未来を救えるのか。

『 ぼくたちのスープ運動 』

ベン・デイヴィス／著

新しい学校、新しい生活になじもうと努力するジョーダン。実は病気で入院していた経験がある。心配性のママが毎日持たせてくれるスープを、ある日ホームレスの男性にあげたことから、家族や学校や地域まで巻き込んで、思わぬ「スープ運動」が広がっていく。ジョーダンは、入院中に知り合った少女とかわした約束——できる限り人にいいことをしよう！——が自分を支えていたこと、そして小さな思いやりが世界を変えるかもしれないということに気づいていく……。オックスフォード大学の学生が、自転車にスープを積んでホームレスに配ったという実話をもとになった、一杯のスープのように温かいお話。



『 四角六面キューブとわたし 』

エルノー・ルービック／著

1980年代に一大ブームを巻き起こしたルービックキューブ。40年以上たった今もお、人々は知的好奇心をくすぐられてそれを手に取り、ときには解く速さを競い合っている。また創造性や知識のシンボルとしてとらえてもいる。一方、その発明者であるエルノー・ルービックの感性や思想は、まさに彼の名を冠したキューブさながらシンプルかつ深遠だ。富や名声に執着しない彼はどのように考え、どのようにキューブを生み、キューブから何を学んできたのか。本書は彼がその半生をつぶさに語った初の自伝である。